



☞ 避難場所と避難所の違い

「避難所」といえば、災害を逃れた人たちが体育館などで過ごすイメージがありますが、厳密には二つの異なる性質があります。

津波や大規模火災など、その場にとどまっていると命を落とすかもしれない災害から身を守るために駆け込む場所を「避難場所（指定緊急避難場所）」、命を守った後に一時的な生活をする場となるのが「避難所（指定避難所）」。避難場所と避難所が異なる場合と同一の施設が指定されている場合があります。

避難場所と避難所は、かつては厳密に区別されていませんでした。2011年の東日本大震災では、「避難場所」ではなく「避難所」に逃げて津波にのみれる被害が多発しました。こうした反省を生かし、明確に区分するようになりました。「白老町防災マップ」P43の「指定緊急避難場所」に、災害の種別ごとに避難場所が指定されています。いま一度確認を。

避難場所と避難所の違い	
避難場所	避難所
<ul style="list-style-type: none"> 火災や津波から身を守るための一時滞在場所 都市公園や緑地、学校（校庭）など 生活のための物資は備蓄されていない 避難所と避難場所は兼ねる場合もある 「津波避難タワー」も避難場所に指定 	<ul style="list-style-type: none"> 被災者を一時的に受け入れ、保護する施設 ある程度の人員を屋内に収容できる 学校や公民館、体育館などが指定されている 食料や生活物資などを備蓄している 避難者が自主的に運営するのが理想とされる
	
	

(しらおい防災マスター会・民部)



台風や大雨から身を守るために

毎年10月に入ると、日本に接近または上陸する台風が多くなります。近年の雨は、限られた区域に以前よりも激しく降る傾向にあり、予想困難で被害も大きくなっています。白老町でも8月30日に突然の大雨警報が発表され、短時間の大雨が降り、町内の数か所で冠水の被害が発生しました。

■洪水・土砂災害ハザードマップの活用

昨年配布しました白老町防災マップに、地区別の河川氾濫時の浸水想定区域や、想定される浸水深のほか、指定緊急避難場所を掲載していますので、日頃からの避難準備に活用してください。

■日ごろからの備え

- ・自宅の周りの物を片付ける。
- ・飲料水・食料・常備薬など必要な物をそろえる。
- ・いつでも避難できる服装に着替え、非常持ち出し袋を用意する。

■早めの情報収集

テレビ・ラジオの天気予報、防災アプリ、室蘭地方気象台などの天気情報を確認して、気象庁発表の大雨情報と町が発令する避難情報を確認してください。「危険が迫る前に早めに避難」



問い合わせ先：総務課 防災交通室 ☎85-3080

【気象庁ウェブサイト】

防災

小さな子どもがいる家庭の災害備蓄ポイント



災害備蓄は3日～1週間×家族分が目安とされています。小さな子どもがいる家庭では、一般的な食料品や飲料水、衛生用品に加えて以下のようなものも備蓄しておく便利です。



乳児がいる場合

- ・液体ミルク…調乳不要ですぐ飲める
- ・粉ミルク（個包装）…計量が不要
- ・使い捨て哺乳瓶 } 哺乳瓶の洗浄
- ・紙コップ、スプーン } 消毒が不要
- ・水（軟水）…調乳用に多めに備蓄
- ・レトルトの離乳食



幼児がいる場合

- ・おやつ（補食）…乾パンやフルーツ缶
 - ・レトルトのカレー、シチュー、ハンバーグなど
- ☆基本的な食事は大人のものを取り分けられればOK！子どもが好きな調味料を備蓄するのもお勧め。

備蓄は、長期保存のきく食材や加工品を多めに買い、日常生活で使用したら使用した分を買い足すローリングストックを活用しましょう！子どもも、災害時に普段と同じものを食べられるだけで、安心感が得られます

問い合わせ先：健康福祉課 健康推進グループ ☎82-5541